

令和8年度 学生自治会活動活性化事業

日本赤十字九州国際看護大学

私たちが直面している「活動のハードル」

【忙しい看護学生のスケジュール】

実習と活動の両立:学部3・4年生は実習が中心となるため、サークル活動・運営は低学年が主体。

限られた時間内の活動:密度の濃い授業や実習等に追われて、自分たちの好きな活動に充てる時間が不足しているのが現状です。

【経済的な面と学生生活の悩み】

アルバイトとの板挟み:生活費・活動費などを確保するためにアルバイトを優先し、結果として課外活動への参加が後回しとなる学生も増えてきています。

活動費用の負担:活動に使用する用具なども古くなっていることに伴う「買い替え費用」や大学外の大会・活動への活動旅費も学生団体や学生個人の負担になっています。

「やりたい！」という思いを支えるためのサポートが必要です。

助成金で叶えたい「3つのサポート」

【多様な学生活動の活性化へ】

体育系 (全8団体):バレーボール、テニス、バドミントン、フットサル など

文化系 (全6団体):ゆいまーるのわ、吹奏楽、ボランティア活動、軽音楽 など

学生自治会執行部、学生奉仕団

【学外での活動とネットワークづくり】

大学内の大会・地域貢献活動:対外試合や地域のボランティア活動のための活動旅費を支援して、活動の場を広げていきます。

日赤看護大学交流会:全国の赤十字看護大学の学生自治会執行部が集う交流会への活動旅費の一部を補助し、大学間・学生間のネットワークづくりにつなげます。

【学生活動を重層的に手厚く支援】

学生自治会・大学からの既存助成金とこの助成金を併せることで、これまで諦めていた「新しい挑戦」が可能な環境を作ります。

経済的な不安を減らして

「はじめの一步」を応援します。

活動の先に広がる「私たちの未来」

【「看護の心」と「人間力」を育む】

現場で生きる力:学生団体の活動・運営を通じて得たリーダーシップや協働力は、将来医療機関などで多職種と連携する際の基礎となります。

豊かな感性:ボランティア活動、スポーツなどの活動での出会いは、患者さまに寄り添うための豊かな人間性を育みます。

【心のリフレッシュと居場所づくり】

燃え尽きないために:授業・実習以外の「ほっとできる居場所」があることで、ストレスを解消し、また学生生活を頑張る原動力にもなります。

【魅力あふれるキャンパスへ】

赤十字の誇り:諸活動や交流などを通して、赤十字の一員としての自覚を深めていきます。

大学を元気に:活発な活動は後輩たちへのメッセージにもなります。「この大学に入学してよかった」と思える文化を育てます。

自律し、他者と共感・協働する

次世代の看護職へ